

レジュメ

多彩なテーマで幅広い読者をつなぐ絵本の魅力

細江 幸世

赤ちゃんから大人まで幅広い読者を対象にし、様々な形態やテーマを受け入れる豊かな器として発展してきた絵本。ロングセラーだけではなく、科学、伝記など様々なジャンルに広がってきた絵本を紹介しつつ、年間 1200 冊あまり刊行される中、どのような視点で絵本を評価・選書するべきか、考えていきたいと思います。

1：絵本ってなんだろう？ 子どもって？

Picture book → 絵（と文）の本

Children's book → 子どもの本、児童図書 ……「子ども」ってなんだ？

Pictorial book → 絵解き 図鑑

2：かっこいい本、絵がいい本 とは？

デザイン de+sign クリエイト create

・MAPS（徳間書店）について長田弘さんが書いていること

→『小さな本の大きな世界』（クレヨンハウス）より

3：たての流れ よこの視点

1冊の絵本を語る時：

- ・それまでに描かれた作品／同時代に描かれた他の作品を見て評価すること
 - ・目の前の子どもにとって必要な本かどうか
 - ・作家の変遷を表す思考の見取り図も読み取る
- 本というのは1冊で存在するのではなく、今までに出ている本、これから出てくる本を内包した存在である

4：近年の絵本状況

- ・ビジュアル図鑑の人気
- ・ノンフィクション、現代的なテーマの絵本

- ・グラフィックノベルなど形態のボーダーレス化
→大人の読者が増えている？
- ・作家の自己表現としての絵本→“子ども”という対象者がいないことの意味（大人の子ども化） “子ども”が見えない？
→物語（フィクション）の力、物語で描けることが弱くなった？
 物語のエンタメ化 過剰な説明
→感じる絵本 絵に身を委ねることの危うさ

5：絵本の多様性、近年注目されている視点

- ・赤ちゃん絵本の多様化
- ・文字なし絵本の意義
- ・科学絵本のグレードの幅が広がる
- ・伝記絵本 ～偉人伝ではない人々 女性のライフ・モデルとしての伝記
- ・子どもに社会を出会わせる絵本
- ・バリアフリー ～身体的なものとは心理的なもの
- ・多文化共生 ～英米圏以外の絵本も
- ・グラフィックノベル

6：最近の本選びで気にかかること

健気な子どもにご用心